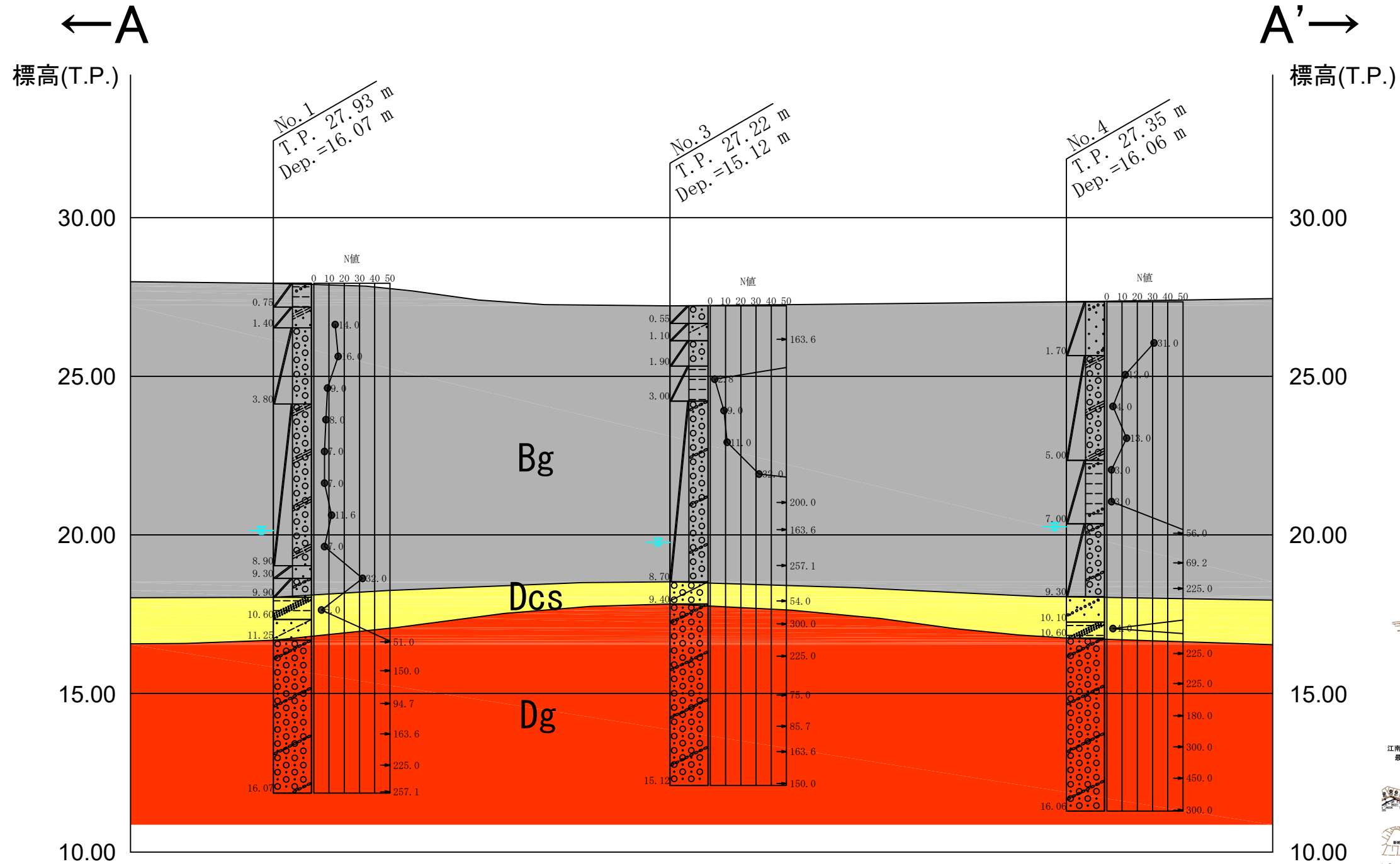


# 地質断面図

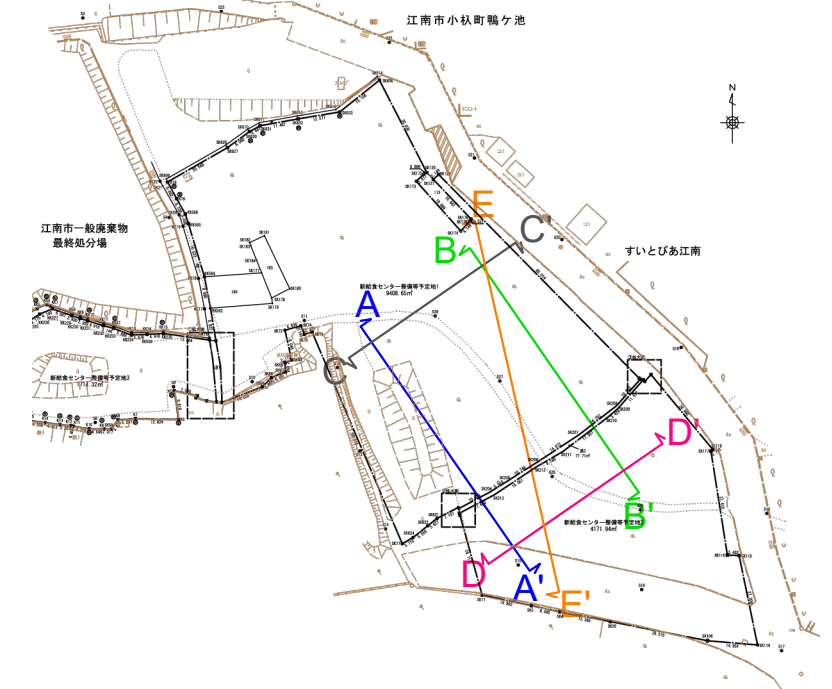
# 地質断面図 V=1:150, H=1:300 (A-A'断面)



## 層序表

年代	記号	N値(回)	層厚(m)	記事
第四紀	Bg	2.8 ~ 69.2	8.5 ~ 10.4	埋土部分。地表面は植物根を多く混入し、腐葉土となっている。全体に玉石・礫を多く含み、砂礫状を呈する部分が大半であるが、含有量が不均一であり、No. 3においては、玉石・礫が密集し、崩壊性が著しい箇所。No. 5においては、玉石・礫の含有が少なく、シルトが優勢となる部分が見られた。所々、コンクリートガラやレンガ片を混入する。玉石・礫は、チャート、流紋岩であり、礫径は2~50mmを主体とし、最大礫径は200mm程度。
	Dcs	4 ~ 10	0.6 ~ 1.4	第一礫層上部に堆積する土層であり、土質としては、全体に細粒分を含む、砂質土、礫質土もしくは粘性土となっており、不均一である。出現標高に起伏があり、No. 3ではやや高くなっている。調査地全体に薄層で堆積する。
更新世	Dg	54 ~ 450	4.75~	径20~100mmの流紋岩礫を主体とし、120~300mmの棒状に採取される。形状は円~垂角状であり、硬質で概ね新鮮な状態である。マトリックスは中~粗砂であり、シルトを含む。玉石は3~6個/m含有するが、所々、玉石の含有量が減少する。TP-18~20m付近にて逸水の傾向が見られる。

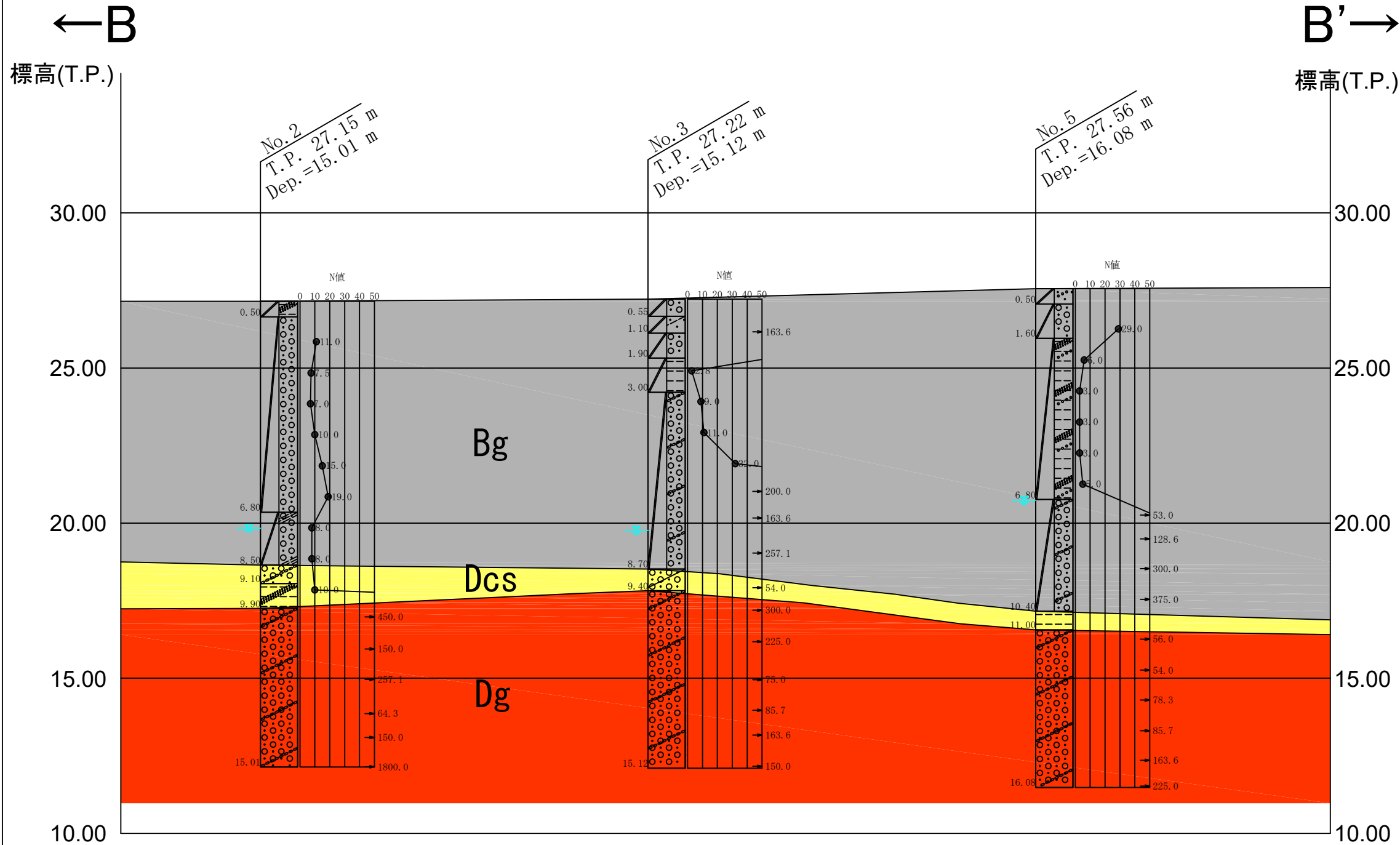
## 平面図(縮尺任意)



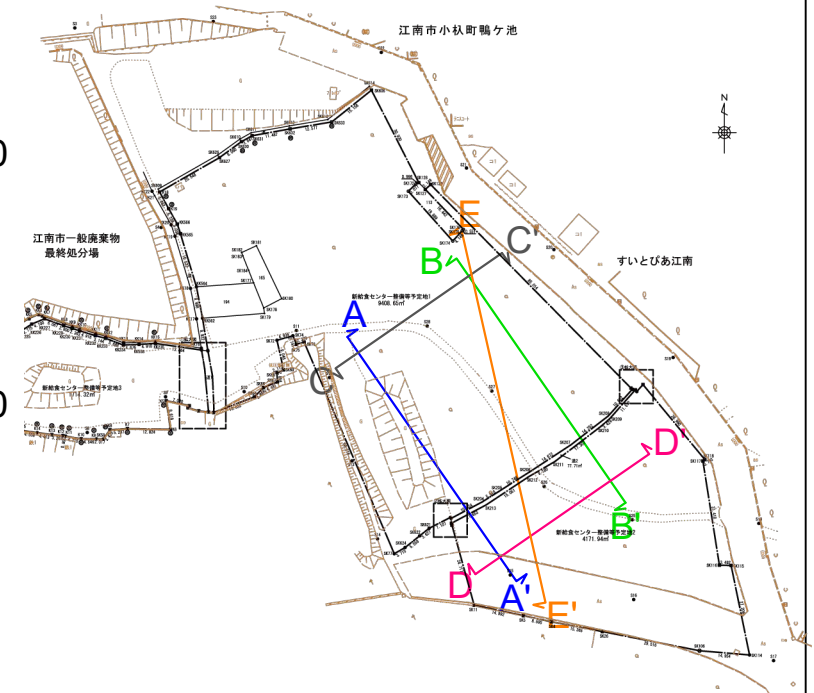
# 地質断面図 V=1:150, H=1:300 (B-B'断面)

## 層序表

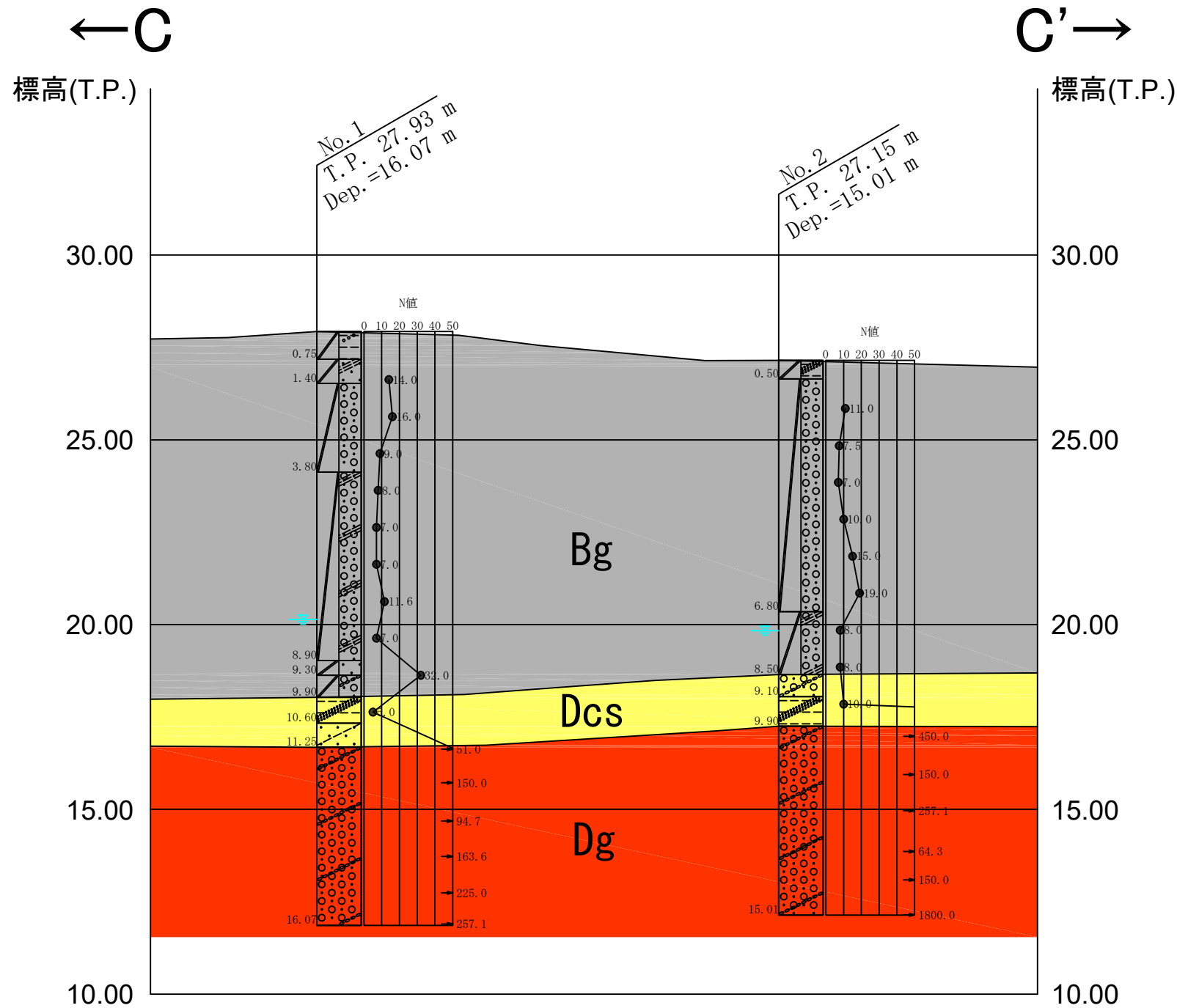
年代	記号	N値(回)	層厚(m)	記事
埋土	Bg	2.8 ~ 69.2	8.5 ~ 10.4	埋土部分。地表面は植物根を多く混入し、腐葉土となっている。全体に玉石・礫を多く含み、砂礫状を呈する部分が大半であるが、含有量が不均一であり、No.31においては、玉石・礫が密集し、崩壊性が著しい箇所、No.5においては、玉石・礫の含有が少なく、シルトが優勢となる部分が見られた。所々、コンクリートガラやレンガ片を混入する。玉石・礫は、チャート、流紋岩であり、礫径は2~50mmを主体とし、最大礫径は200mm程度。
第四紀	Dcs	4 ~ 10	0.6 ~ 1.4	第一礫層上部に堆積する土層であり、土質としては、全体に細粒分を含む、砂質土・礫質土もしくは粘性土となっており、不均一である。出現標高に起伏があり、No.3ではやや高くなっている。調査地全体に薄層で堆積する。
更新世	Dg	54 ~ 450	4.75~	径20~100mmの流紋岩礫を主体とし、120~300mmの棒状に採取される。形状は円~垂角状であり、硬質で概ね新鮮な状態である。マトリックスは中~粗砂であり、シルトを含む。玉石は3~6個/m含有するが、所々、玉石の含有量が減少する。TP-18~20m付近にて逸水する傾向が見られる。



## 平面図(縮尺任意)



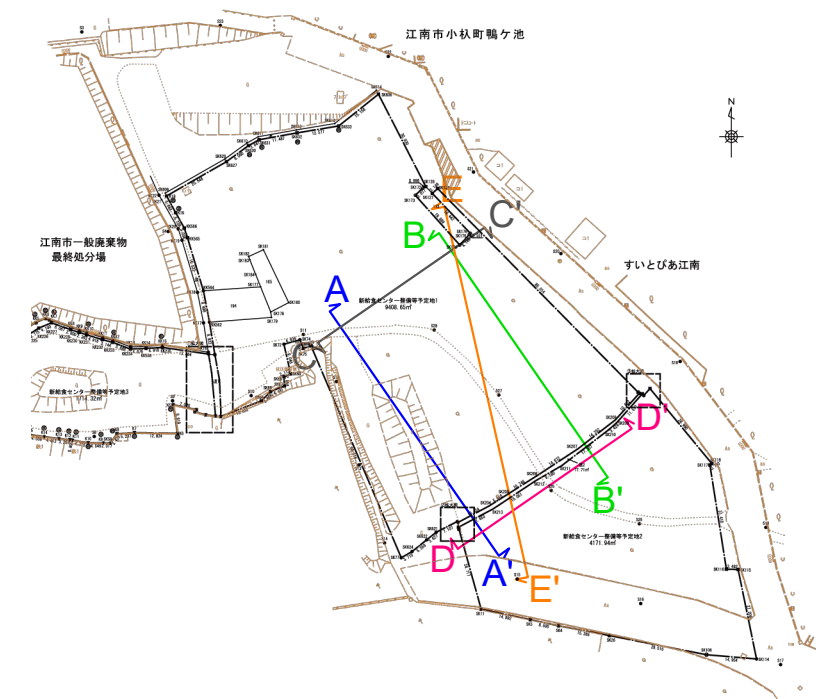
# 地質断面図 V=1:150, H=1:300 (C-C'断面)



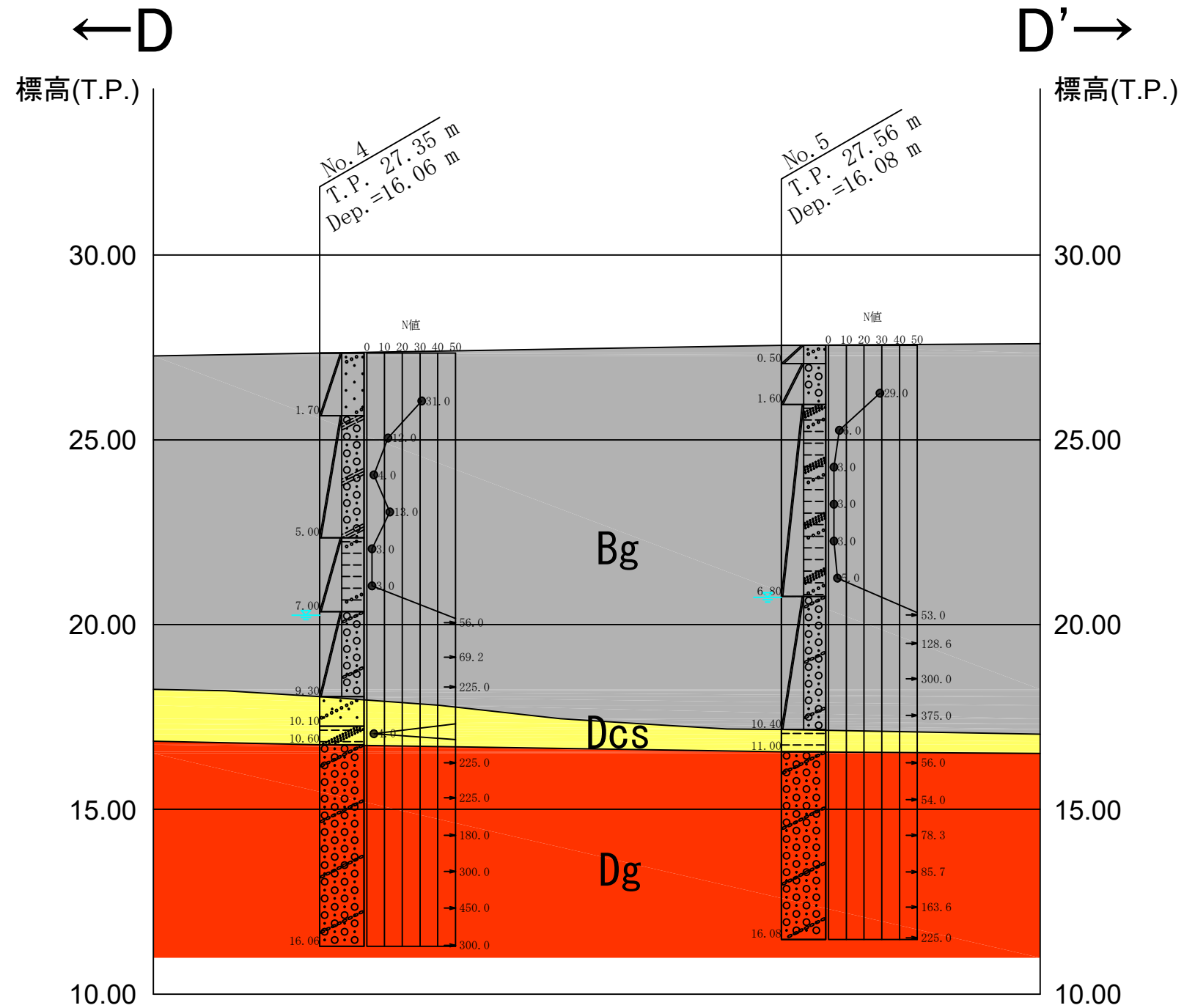
## 層序表

年代	記号	N値(回)	層厚(m)	記事
第四紀	Bg	2.8 ~ 69.2	8.5 ~ 10.4	埋土部分。地表面は植物根を多く混入し、腐葉土となっている。全体に玉石・礫を多く含み、砂礫状を呈する部分が大半であるが、含有量が不均一であり、No. 31においては、玉石・礫が密集し、崩壊性が著しい箇所、No. 51においては、玉石・礫の含有が少なく、シルトが優勢となる部分が見られた。所々、コンクリートガラやレンガ片を混入する。玉石・礫は、チャート、流紋岩であり、礫径は2~50mmを主体とし、最大礫径は200mm程度。
	Dcs	4 ~ 10	0.6 ~ 1.4	第一礫層上部に堆積する土層であり、土質としては、全体に細粒分を含む、砂質土・礫質土もしくは粘性土となっており、不均一である。出現標高に起伏があり、No. 3ではやや高くなっている。調査地全体に薄層で堆積する。
更新世	Dg	54 ~ 450	4.75~	径20~100mmの流紋岩礫を主体とし、120~300mmの棒状に採取される。形状は円~垂角状であり、硬質で概ね新鮮な状態である。マトリックスは中~粗砂であり、シルトを含む。玉石は3~6個/m含有するが、所々、玉石の含有量が減少する。TP-18~20m付近にて逸水する傾向が見られる。

## 平面図(縮尺任意)



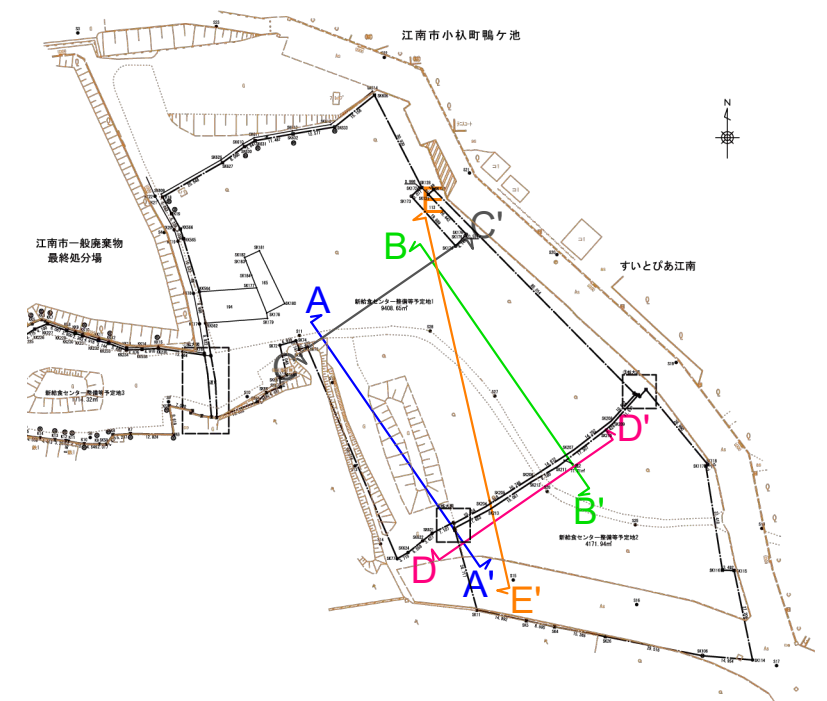
# 地質断面図 V=1:150, H=1:300 (D-D'断面)



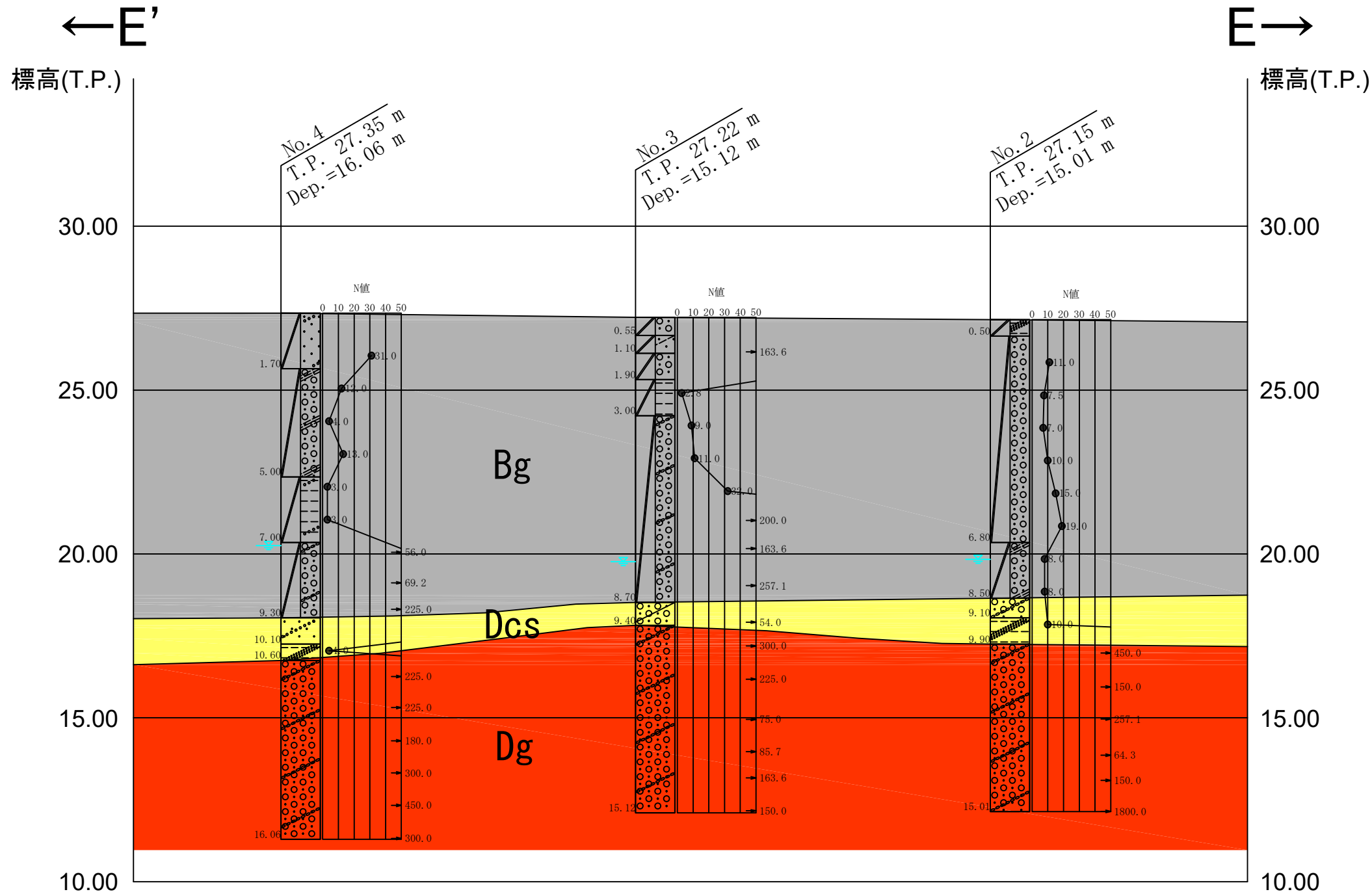
## 層序表

年代	記号	N値(回)	層厚(m)	記事
第四紀	Bg	2.8 ~ 69.2	8.5 ~ 10.4	埋土部分。地表面は植物根を多く混入し、腐葉土となっている。全体に玉石・礫を多く含み、砂礫状を呈する部分が大半であるが、含有量が不均一であり、No. 3においては、玉石・礫が密集し、崩壊性が著しい箇所、No. 5においては、玉石・礫の含有が少なく、シルトが優勢となる部分が見られた。所々、コンクリートガラやレンガ片を混入する。玉石・礫は、チャート、流紋岩であり、礫径は2~50mmを主体とし、最大礫径は200mm程度。
	Dcs	4 ~ 10	0.6 ~ 1.4	第一礫層上部に堆積する土層であり、土質としては、全体に細粒分を含む、砂質土・礫質土もしくは粘性土となっており、不均一である。出現標高に起伏があり、No. 3ではやや高くなっている。調査地全体に薄層で堆積する。
更新世	Dg	54 ~ 450	4.75~	径20~100mmの流紋岩礫を主体とし、120~300mmの棒状に採取される。形状は円~歪角状であり、硬質で概ね新鮮な状態である。マトリックスは中~粗砂であり、シルトを含む。玉石は3~6個/m含有するが、所々、玉石の含有量が減少する。TP-18~20m付近にて逸水する傾向が見られる。

## 平面図(縮尺任意)



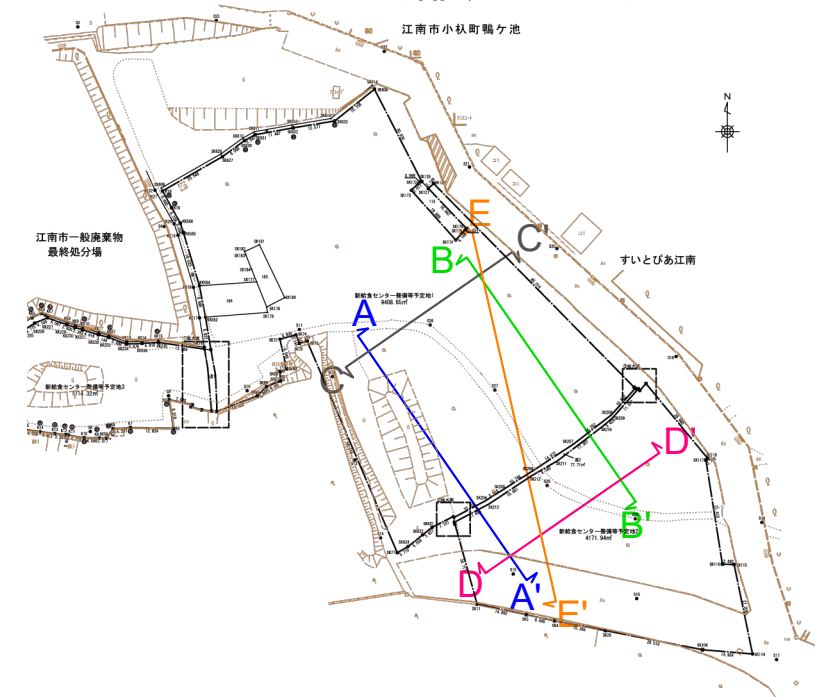
# 地質断面図 V=1:150, H=1:300 (E-E'断面)



## 層序表

年代	記号	N値(回)	層厚(m)	記事
第四紀	Bg	2.8 ~ 69.2	8.5 ~ 10.4	埋土部分。地表は植物根を多く混入し、腐葉土となっている。全体に玉石・礫を多く含み、砂礫状を呈する部分が大半であるが、含有量が不均一であり、No.3においては、玉石・礫が密集し、崩壊性が著しい箇所、No.5においては、玉石・礫の含有が少なく、シルトが優勢となる部分が見られた。所々、コンクリートガラやレンガ片を混入する。玉石・礫は、チャート、流紋岩であり、礫径は2~50mmを主体とし、最大礫径は200mm程度。
	Dcs	4 ~ 10	0.6 ~ 1.4	第一礫層上部に堆積する土層であり、土質としては、全体に細粒分を含む、砂質土・礫質土もしくは粘性土となっており、不均一である。出現標高に起伏があり、No.3ではやや高くなっている。調査地全体に薄層で堆積する。
更新世	Dg	54 ~ 450	4.75~	径20~100mmの流紋岩礫を主体とし、120~300mmの棒状に採取される。形状は円~垂角状であり、硬質で概ね新鮮な状態である。マトリックスは中~粗砂であり、シルトを含む。玉石は3~6個/m含有するが、所々、玉石の含有量が減少する。TP-18~20m付近にて逸水する傾向が見られる。

## 平面図(縮尺任意)



# ボーリング柱状図

# 土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）

調査名 地質調査委託

事業名または工事名

調査目的及び調査対象 建築 構造物基礎

ボーリング名	No.1	調査位置	愛知県江南市小松町鴨ヶ池地区内	北緯	35° 22	11.95
発注機関	愛知県江南市教育部学校給食課	調査期間	令和05年01月06日～令和05年01月11日	東経	136° 52	40.12
調査業者名	中央開発株式会社 中部支店 電話(052-481-6261)	現場代理人	川淵達也 地質調査技士 登録番号 第24870号	ボーリング責任者	齊藤範夫 地質調査技士 登録番号 第8596号	
孔口標高	T.P. 27.93 m	主任技師	遠藤彰博 地質調査技士 登録番号 第19789号	コア鑑定者	川淵達也 地質調査技士 登録番号 第24870号	
総削孔長	16.07 m	方位	北 0° 西 270° 東 90° 南 180°	試験機	YBM-05	
		角度	上 180° 下 0° 90°	エンジン	NFD9	ポンプ
		地盤勾配	水平 鉛直 90°	使用機種		

標尺 (m)	層厚 (m)	標高 (m)	現場土質名 (模様)	現場土質名の工学的分類	色調	相対稠密度	記	標準貫入試験				自沈時の貫入量	原位置試験及び結果	試験採取方法	室内試験	削孔月日		
								N値	深 (m)	100mmの打撃回数	打撃ことの貫入量						50回の貫入量	
1	0.75	27.18	礫混じりシルト (埋土)	黒褐色	rc2		植物根を多く混入する腐葉土。体を含む。細砂を主体とし、全体にシルトを多く含む。	14.0	1.15	4	4	6	14	300				
2	0.65	26.53	シルト質砂 (埋土)	黄褐色	rd3			16.0	2.15	6	5	16	300					
3	1.40		砂礫埋土	黄灰	rd2		径2~50mmのチャート礫を主体とし、最大礫径は100mm程度。マトリックスは細~中砂主体。	9.0	3.45	3	3	9	300					
4	2.40	24.13						8.0	4.15	3	2	8	300					
5	3.80							7.0	5.15	2	3	7	300					
6								7.0	6.15	2	3	7	300					
7								7.0	6.45	2	3	7	300					
8								11.6	7.15	5	4	12	310					
9	5.10	19.03						7.0	8.15	2	3	7	300					
10	0.40	18.63	砂 (埋土)	暗灰	rd2		径2~50mmのチャート礫を主体とし、最大礫径は80mm程度。所々、流紋岩礫を含む。マトリックスはシルト質砂を混入する。径GL-7.0m以下、径150mm程度のチャート玉石が点在する。	32.0	9.15	3	17	32	300					
10	0.60	18.03	玉石混じり砂礫 (埋土)	黄灰	rd4			5.0	9.45	2	2	5	300					
10	0.90		砂質シルト	黄灰	rc2			5.0	10.15	2	2	1	5					
11	0.70	17.33	シルト混じり砂	黄灰	rd4			5.0	10.45	110	120	70	300	10.15	1-P10	P	物理	
11	0.65	16.68						51.0	11.15	3	18	30	51	10.45				
12	11.25							150.0	11.45	11	60	120	300					
12	0.65							150.0	12.15	49	20	60	120					
13								94.7	12.27	8	52	60	190					
13			玉石混じり砂礫			rd5	径20~80mmの硬質な流紋岩礫を主体とし、最大礫径は150mm程度で、棒状に採取される。クスは中~粗砂を主体とするが、細礫も多く充填される。玉石は3~5個/m含有する。GL-13.2m付近にて逸水する。	163.6	13.15	8	90	60	110					
14								225.0	13.34	52	80	60	110					
14								225.0	14.15	8	10	60	110					
15								225.0	14.26	60	60	60	110					
15								225.0	15.15	60	80	60	110					
15								225.0	15.23	80	60	60	110					
16	4.82	11.86						257.1	16.00	60	70	60	70					
16	4.82							257.1	16.07	70	70	60	70					
17									16.07	70	70	60	70					







# 土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）

調査名 地質調査委託

事業名または工事名

調査目的及び調査対象 建築 構造物基礎

ボーリング名	No.4	調査位置	愛知県江南市小松町鴨ヶ池地区内	北緯	35° 22' 10.64"
発注機関	愛知県江南市教育部学校給食課	調査期間	令和05年01月10日～令和05年01月12日	東経	136° 52' 41.30"
調査業者名	中央開発株式会社 中部支店 電話(052-481-6261)	現場代理人	川淵達也 地質調査技士 登録番号 第24870号	ボーリング責任者	黒田豊彦 地質調査技士 登録番号 第24677号
孔口標高	T.P. 27.35 m	主任技師	遠藤彰博 地質調査技士 登録番号 第19789号	コア鑑定者	川淵達也 地質調査技士 登録番号 第24870号
総削孔長	16.06 m	方位	北 0° 東 90° 南 180° 西 270°	試験機	YBM-05
		角度	上 0° 下 90°	エンジン	NFA08
			地盤勾配		ポンプ
			使用機種		

標尺 (m)	層厚 (m)	標高 (m)	現場土質名 (模様)	現場土質名	地盤材料の工学的分類	色	相對稠密度	相對密度	記	標準貫入試験				自沈時の貫入量	原位置試験	試料採取	室内試験	削孔月日	
										N値	深度 (m)	100mm以上の打撃回数	打撃ごとの貫入量						深度 (m)
1		25.65	礫混じり砂 (埋土)	礫混じり砂 (埋土)		暗褐色灰	rd4		細砂を主体とし、径30mm未満の礫を含む。	31.0	1.15	13	12	6	31				
2	1.70					褐色暗灰	rd2		径2~30mmのチャート礫を主体とし、最大礫径は100mm程度。マトリック스는シルト質砂。レンガ片を混入する。	12.0	2.15	5	4	3	12				
3										4.0	3.15	1	2	1	4				
4										13.0	4.15	8	4	1	13				
5	3.30	22.35							粘性中位。含水量全体に含む。径30mm未満の礫を含む。	3.0	5.15	1	1	1	3				
6			礫混じりシルト (埋土)	礫混じりシルト (埋土)		暗灰	rc3			3.0	6.15	1	1	1	3				
7	2.00	20.35								56.0	7.15	17	13	26	56				1/10
8			玉石混じり砂礫 (埋土)	玉石混じり砂礫 (埋土)		暗灰	rd5		径5~50mmのチャート・流紋岩礫を主体とし、最大礫径は100mm程度。マトリック스는中～粗砂。	69.2	8.10	23	15	60	60				
9	2.30	18.05								225.0	9.08	60	80	80	80				1/11
10	0.80	17.25	礫混じり砂	礫混じり砂		黄灰	rd4		中～粗砂を主体とし、径2~20mmの礫を全体に含む。粘性弱い。含水量中位。細砂を全体に多く含む。	4.0	10.15	1	1	2	4				
11	0.50	16.75	砂質シルト	砂質シルト		黄灰	rc2			225.0	11.05	60	80	80	80				
12										225.0	12.00	60	80	80	80				
13										180.0	13.00	60	100	100	100				
14									径20~80mmの流紋岩礫を主体とし、最大礫径は120mm程度。マトリック스는中～粗砂を主体とし、玉石は5~6個/m含有する。GL-14.8m付近にて、逸水する。	300.0	14.00	60	60	60	60				
15										450.0	15.00	60	40	40	40				
16	5.46	11.29								300.0	16.00	60	60	60	60				1/12
17										300.0	16.06	60	60	60	60				

# 土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）

調査名 地質調査委託

事業名または工事名

調査目的及び調査対象 建築 構造物基礎

ボーリング名	No.5	調査位置	愛知県江南市小松町鴨ヶ池地区内		北緯	35° 22	11.03
発注機関	愛知県江南市教育部学校給食課	調査期間	令和05年01月16日～令和05年01月18日		東経	136° 52	41.94
調査業者名	中央開発株式会社 中部支店 電話(052-481-6261)	現場代理人	川淵達也 地質調査技士 登録番号 第24870号	コア鑑定者	黒田豊彦 地質調査技士 登録番号 第24677号		
孔口標高	T.P. 27.56 m	主任技師	遠藤彰博 地質調査技士 登録番号 第19789号	試験機	YBM-05		
総削孔長	16.08 m	方位	北 0° 東 90° 西 270° 南 180°	エンジン	NFA08	ポンプ	
		地盤勾配	水平 0° 鉛直 90°				

標尺 (m)	層厚 (m)	標高 (m)	現場土質名 (模様)	現場土質名	地盤材料の工学的分類	色	相對稠密度	相對密度	相対稠密度	記	孔内水位 / 測定年月日	標準貫入試験				原位置試験 深度 (m)	試験名 及び結果	試料採取 深度 (m)	採取方法	室内試験	削孔月日
												N 値	100mm之 の打撃回数	打撃ことの貫入量	50 回の貫入量						
27.06	0.50	27.06	礫混じり砂 (埋土)	暗褐色	暗褐色	rd2				表面付近は植物根を混入。中砂を主体とし、径30mm未満の礫を主体とし、最大礫径は50mm程度。マトリックスは中～粗砂。不規則に粘土を含む。	1/16 6.83	1.15	10	11	8	29	29.0				
25.96	1.10	25.96	砂礫 (埋土)	褐色	褐色	rd2				粘性弱い～中位。含水量中位。 径2～40mmの子ヤマト礫を主体とし、最大礫径は120mm程度の玉石を含む。		6.0	2	2	6	6.0					
			礫混じり砂質シルト (埋土)									3.0	1	1	3	3.0					
												3.0	1	1	3	3.0					
												5.0	1	2	5	5.0					
20.76	5.20	20.76							rc2			53.0	18	15	20	53					
												128.6	42	18	60	140					
									rd5	淡褐色		300.0	50	50	50	50					
												375.0	50	50	40	40					
17.16	3.60	17.16										56.0	12	18	26	56					
16.56	0.60	16.56							rc2	黄灰		54.0	14	18	22	54					
												78.3	28	15	17	60					
												85.7	20	32	8	60					
												163.6	15	15	52	60					
												225.0	16	60	60	80					
11.48	5.08	11.48											16.00	60	80						
													16.08	80							

# 土質試驗結果一覽

土質試験結果一覧表 (基礎地盤)

調査件名 地質調査委託

整理年月日

2023年 2月 10日

整理担当者

石原 聖子

試料番号 (深 さ)		1-P10 (10.15~10.45m)	2-P9 (9.15~9.45m)			
一般	湿潤密度 $\rho_t$ g/cm <sup>3</sup>					
	乾燥密度 $\rho_d$ g/cm <sup>3</sup>					
	土粒子の密度 $\rho_s$ g/cm <sup>3</sup>	2.646	2.638			
	自然含水比 $w_n$ %	33.1	26.7			
	間隙比 $e$					
	飽和度 $S_r$ %					
粒度	石分 (75mm以上) %					
	礫分 <sup>1)</sup> (2~75mm) %	0.2	11.8			
	砂分 <sup>1)</sup> (0.075~2mm) %	48.2	45.7			
	シルト分 <sup>1)</sup> (0.005~0.075mm) %	37.2	26.0			
	粘土分 <sup>1)</sup> (0.005mm未満) %	14.4	16.5			
	最大粒径 mm	9.5	19			
	均等係数 $U_c$	-	-			
	50%粒径 $D_{50}$ mm	0.0667	0.1465			
20%粒径 $D_{20}$ mm	0.0082	0.0075				
コンシステンシー特性	液性限界 $w_L$ %	31.3	29.4			
	塑性限界 $w_p$ %	17.0	15.9			
	塑性指数 $I_p$	14.3	13.5			
分類	地盤材料の 分類名	砂質粘土 (低液性限界)	礫まじり 細粒分質砂			
	分類記号	(CLS)	(SF-G)			
圧密	試験方法					
	圧縮指数 $C_c$					
	圧密降伏応力 $p_c$ kN/m <sup>2</sup>					
一軸圧縮	一軸圧縮強さ $q_u$ kN/m <sup>2</sup>					
	一軸圧縮強さ $q_u$ kN/m <sup>2</sup>					
	一軸圧縮強さ $q_u$ kN/m <sup>2</sup>					
	一軸圧縮強さ $q_u$ kN/m <sup>2</sup>					
せん断	試験条件					
	全応力	$c$ kN/m <sup>2</sup>				
		$\phi$ °				
	有効応力	$c'$ kN/m <sup>2</sup>				
$\phi'$ °						

特記事項

1) 石分を除いた75mm未満の土質材料  
に対する百分率で表す。

[1kN/m<sup>2</sup> ≒ 0.0102kgf/cm<sup>2</sup>]

調査件名 地質調査委託 試験年月日 2023年 2月 2日

試 験 者 石原 聖子

試 料 番 号 (深 さ)		1-P10 (10.15~10.45m)			2-P9 (9.15~9.45m)		
ピクノメーター No.		37	38	39	40	41	42
(試料+蒸留水+ピクノメーター)の質量 $m_b$ g		138.294	139.110	140.668	137.764	138.769	131.298
$m_b$ をはかったときの内容物の温度 $T$ °C		13.0	13.0	13.0	13.0	13.0	13.0
$T$ °Cにおける蒸留水の密度 $\rho_w(T)$ g/cm <sup>3</sup>		0.99938	0.99938	0.99938	0.99938	0.99938	0.99938
温度 $T$ °Cの蒸留水を満たしたときの (蒸留水+ピクノメーター)質量 $m_a$ g		125.393	124.373	125.675	123.205	124.345	117.705
試 料 の 炉 乾 燥 質 量	容 器 No.	A37	A38	A39	A40	A41	A42
	(炉乾燥試料+容器)質量g	87.448	88.080	90.732	89.798	90.980	87.768
	容 器 質 量 g	66.689	64.421	66.647	66.326	67.770	65.905
$m_s$ g		20.759	23.659	24.085	23.472	23.210	21.863
土 粒 子 の 密 度 $\rho_s$ g/cm <sup>3</sup>		2.640	2.650	2.647	2.632	2.640	2.642
平 均 値 $\rho_s$ g/cm <sup>3</sup>		2.646			2.638		
試 料 番 号 (深 さ)							
ピクノメーター No.							
(試料+蒸留水+ピクノメーター)の質量 $m_b$ g							
$m_b$ をはかったときの内容物の温度 $T$ °C							
$T$ °Cにおける蒸留水の密度 $\rho_w(T)$ g/cm <sup>3</sup>							
温度 $T$ °Cの蒸留水を満たしたときの (蒸留水+ピクノメーター)質量 $m_a$ g							
試 料 の 炉 乾 燥 質 量	容 器 No.						
	(炉乾燥試料+容器)質量g						
	容 器 質 量 g						
$m_s$ g							
土 粒 子 の 密 度 $\rho_s$ g/cm <sup>3</sup>							
平 均 値 $\rho_s$ g/cm <sup>3</sup>							
試 料 番 号 (深 さ)							
ピクノメーター No.							
(試料+蒸留水+ピクノメーター)の質量 $m_b$ g							
$m_b$ をはかったときの内容物の温度 $T$ °C							
$T$ °Cにおける蒸留水の密度 $\rho_w(T)$ g/cm <sup>3</sup>							
温度 $T$ °Cの蒸留水を満たしたときの (蒸留水+ピクノメーター)質量 $m_a$ g							
試 料 の 炉 乾 燥 質 量	容 器 No.						
	(炉乾燥試料+容器)質量g						
	容 器 質 量 g						
$m_s$ g							
土 粒 子 の 密 度 $\rho_s$ g/cm <sup>3</sup>							
平 均 値 $\rho_s$ g/cm <sup>3</sup>							

特記事項

1) ピクノメーターの検定結果から求める。

$$\rho_s = \frac{m_s}{m_s + (m_a - m_b)} \times \rho_w(T)$$

調査件名 地質調査委託

試験年月日 2023年 2月 1日

試験者 石原 聖子

試料番号 (深さ)	1-P10 (10.15~10.45m)			2-P9 (9.15~9.45m)		
容器 No.	C127	C128	C129	C130	C131	C132
$m_a$ g	217.21	209.86	198.87	134.54	129.57	94.97
$m_b$ g	169.09	162.68	155.26	109.64	107.69	79.92
$m_c$ g	22.30	22.94	22.01	21.97	22.80	22.04
w %	32.8	33.8	32.7	28.4	25.8	26.0
平均値 w %	33.1			26.7		
特記事項						

試料番号 (深さ)						
容器 No.						
$m_a$ g						
$m_b$ g						
$m_c$ g						
w %						
平均値 w %						
特記事項						

試料番号 (深さ)						
容器 No.						
$m_a$ g						
$m_b$ g						
$m_c$ g						
w %						
平均値 w %						
特記事項						

試料番号 (深さ)						
容器 No.						
$m_a$ g						
$m_b$ g						
$m_c$ g						
w %						
平均値 w %						
特記事項						

試料番号 (深さ)						
容器 No.						
$m_a$ g						
$m_b$ g						
$m_c$ g						
w %						
平均値 w %						
特記事項						

$$w = \frac{m_a - m_b}{m_b - m_c} \times 100$$

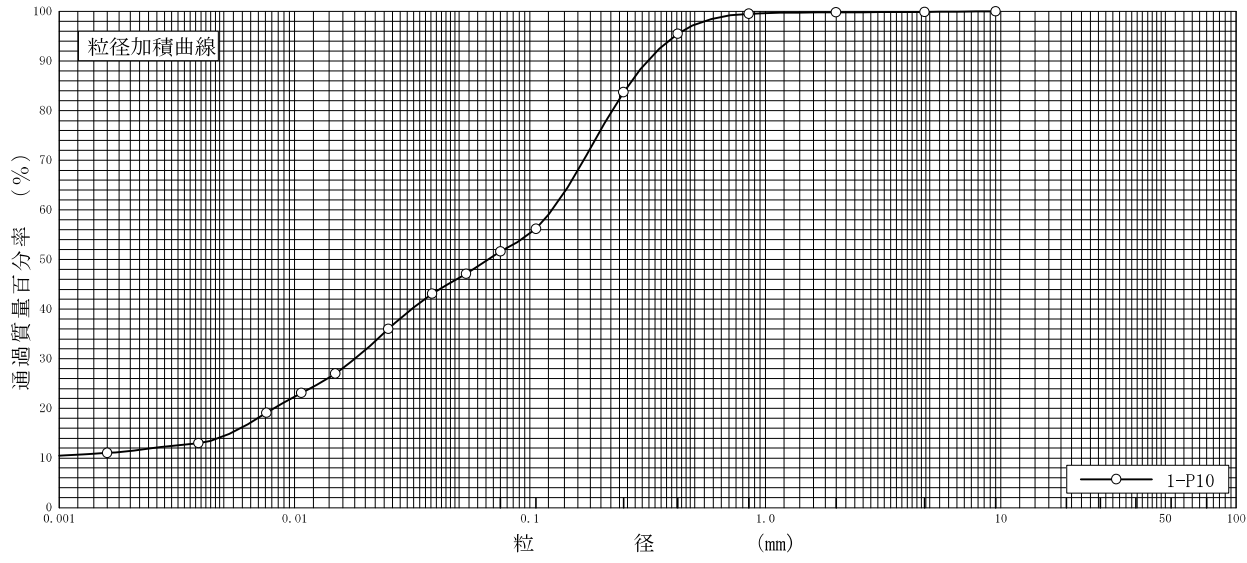
$m_a$  : (試料+容器)質量  
 $m_b$  : (炉乾燥試料+容器)質量  
 $m_c$  : 容器質量



調査件名 地質調査委託 試験年月日 2023年 2月 3日

試験者 石原 聖子

試料番号 (深さ)	1-P10 (10.15~10.45m)				試料番号 (深さ)		1-P10 (10.15~10.45m)	
	粒径 mm	通過質量百分率%	粒径 mm	通過質量百分率%	粗礫分 %		0	
ふるい 析	75		75		中礫分 %		0.1	
	53		53		細礫分 %		0.1	
	37.5		37.5		粗砂分 %		0.3	
	26.5		26.5		中砂分 %		15.8	
	19		19		細砂分 %		32.1	
	9.5	100.0	9.5		シルト分 %		37.2	
	4.75	99.9	4.75		粘土分 %		14.4	
	2	99.8	2		2mmふるい通過質量百分率 %		99.8	
	0.850	99.5	0.850		425μmふるい通過質量百分率 %		95.5	
	0.425	95.5	0.425		75μmふるい通過質量百分率 %		51.6	
	0.250	83.7	0.250		最大粒径 mm		9.5	
	0.106	56.2	0.106		60% 粒径 $D_{60}$ mm		0.1243	
	0.075	51.6	0.075		50% 粒径 $D_{50}$ mm		0.0667	
沈降 析	0.0535	47.1			30% 粒径 $D_{30}$ mm		0.0180	
	0.0384	43.1			10% 粒径 $D_{10}$ mm		-	
	0.0250	36.0			均等係数 $U_c$		-	
	0.0149	27.0			曲率係数 $U'_c$		-	
	0.0107	23.1			土粒子の密度 $\rho_s$ g/cm <sup>3</sup>		2.646	
	0.0076	19.1			使用した分散剤		ヘキサメチル酸ナトリウム分散液	
	0.0039	13.0			溶液濃度, 溶液添加量		20%, 10ml	
0.0016	11.0			20% 粒径 $D_{20}$ mm		0.0082		



粘 土	シ ル ト	細 砂	中 砂	粗 砂	細 礫	中 礫	粗 礫
-----	-------	-----	-----	-----	-----	-----	-----

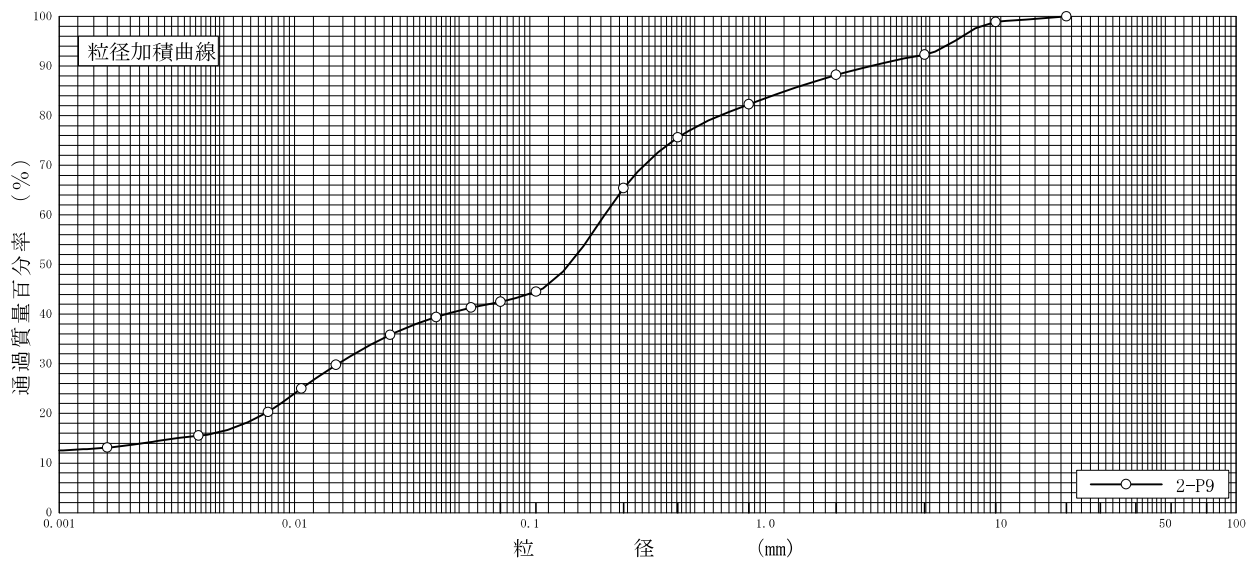
特記事項

調査件名 地質調査委託

試験年月日 2023年 2月 3日

試験者 石原 聖子

試料番号 (深さ)	2-P9 (9.15~9.45m)				試料番号 (深さ)		2-P9 (9.15~9.45m)	
	粒径 mm	通過質量百分率%	粒径 mm	通過質量百分率%	粗礫分 %		0	
ふるい	75		75		中礫分 %		7.7	
	53		53		細礫分 %		4.1	
	37.5		37.5		粗砂分 %		5.9	
	26.5		26.5		中砂分 %		16.9	
	19	100.0	19		細砂分 %		22.9	
	9.5	98.9	9.5		シルト分 %		26.0	
	4.75	92.3	4.75		粘土分 %		16.5	
	2	88.2	2		2mmふるい通過質量百分率 %		88.2	
	0.850	82.3	0.850		425μmふるい通過質量百分率 %		75.6	
	0.425	75.6	0.425		75μmふるい通過質量百分率 %		42.5	
	0.250	65.4	0.250		最大粒径 mm		19	
	0.106	44.5	0.106		60% 粒径 $D_{60}$ mm		0.2074	
	0.075	42.5	0.075		50% 粒径 $D_{50}$ mm		0.1465	
沈降	0.0561	41.3			30% 粒径 $D_{30}$ mm		0.0153	
	0.0399	39.4			10% 粒径 $D_{10}$ mm		-	
	0.0255	35.8			均等係数 $U_c$		-	
	0.0150	29.8			曲率係数 $U'_c$		-	
	0.0107	25.0			土粒子の密度 $\rho_s$ g/cm <sup>3</sup>		2.638	
	0.0077	20.3			使用した分散剤		ヘキサメチル酸ナトリウム分散液	
	0.0039	15.5			溶液濃度, 溶液添加量		20%, 10ml	
析	0.0016	13.1			20% 粒径 $D_{20}$ mm		0.0075	



特記事項

調査件名 地質調査委託

試験年月日 2023年 2月 7日

試験者 石原 聖子

試料番号 (深さ) 1-P10 (10.15~10.45m)

液性限界試験		塑性限界試験		液性限界 $w_L$ %
落下回数	含水比 $w$ %	含水比 $w$ %		
				31.3
37	30.2	17.1	塑性限界 $w_p$ %	
32	30.5	16.9		17.0
28	30.8	17.1	塑性指数 $I_p$	
20	31.9			14.3
14	33.2			
9	34.7			

試料番号 (深さ) 2-P9 (9.15~9.45m)

液性限界試験		塑性限界試験		液性限界 $w_L$ %
落下回数	含水比 $w$ %	含水比 $w$ %		
				29.4
31	28.6	15.9	塑性限界 $w_p$ %	
27	29.1	15.8		15.9
24	29.6	15.9	塑性指数 $I_p$	
19	30.3			13.5
16	31.0			
13	31.4			

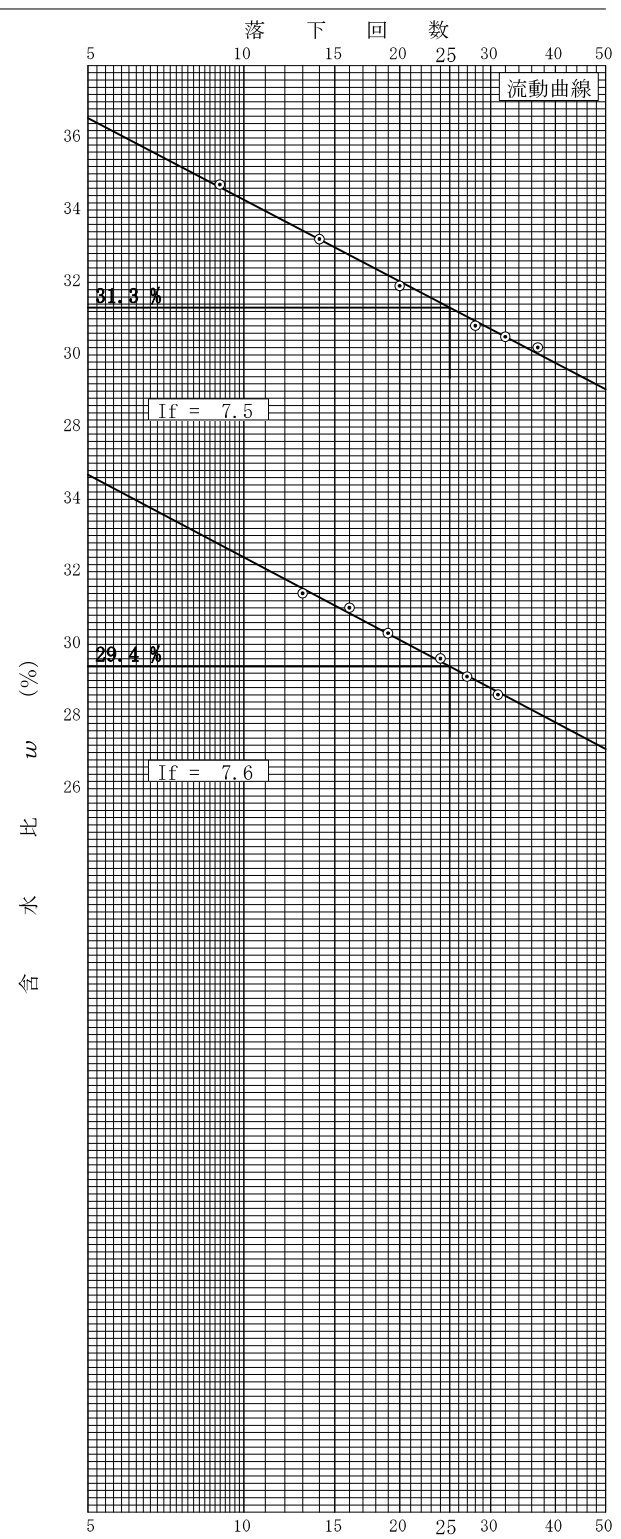
試料番号 (深さ)

液性限界試験		塑性限界試験		液性限界 $w_L$ %
落下回数	含水比 $w$ %	含水比 $w$ %		
			塑性限界 $w_p$ %	
			塑性指数 $I_p$	

試料番号 (深さ)

液性限界試験		塑性限界試験		液性限界 $w_L$ %
落下回数	含水比 $w$ %	含水比 $w$ %		
			塑性限界 $w_p$ %	
			塑性指数 $I_p$	

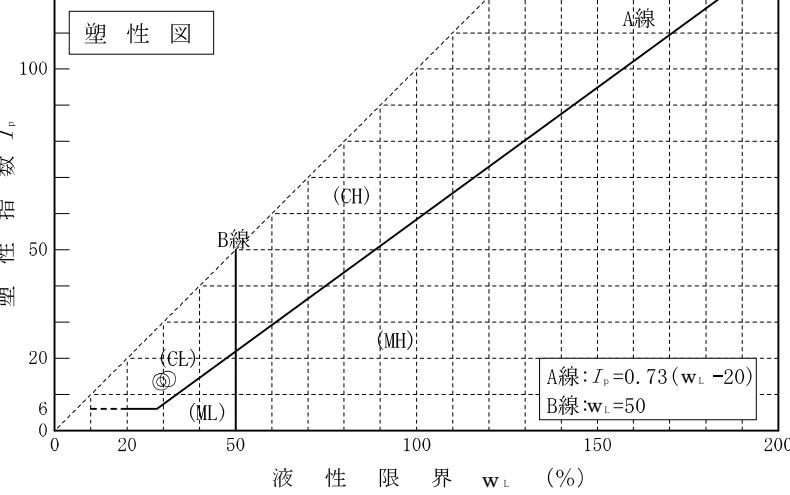
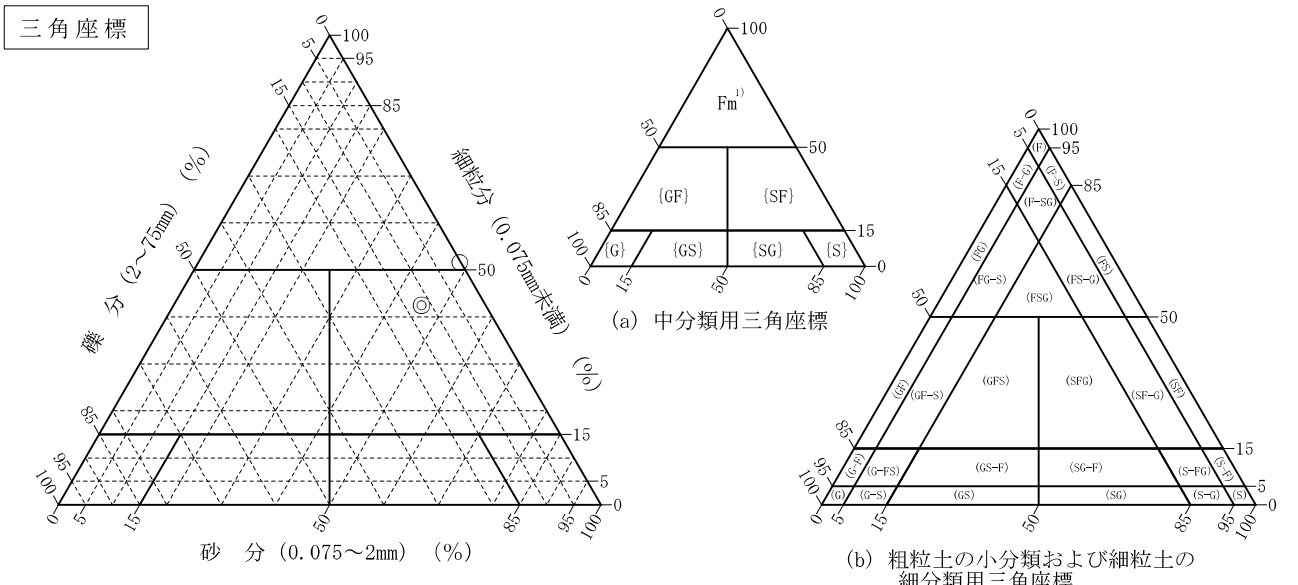
特記事項



調査件名 地質調査委託 試験年月日 2023年 2月 10日

試験者 石原 聖子

試料番号 (深さ)	1-P10 (10.15~10.45m)	2-P9 (9.15~9.45m)			
石分(75mm以上) %					
礫分(2~75mm) %	0.2	11.8			
砂分(0.075~2mm) %	48.2	45.7			
細粒分(0.075mm未満) %	51.6	42.5			
シルト分(0.005~0.075mm)%	37.2	26.0			
粘土分(0.005mm未満) %	14.4	16.5			
最大粒径 mm	9.5	19			
均等係数 $U_c$	-	-			
液性限界 $w_L$ %	31.3	29.4			
塑性限界 $w_p$ %	17.0	15.9			
塑性指数 $I_p$	14.3	13.5			
地盤材料の分類名	砂質粘土 (低液性限界)	礫まじり 細粒分質砂			
分類記号	(CLS)	(SF-G)			
凡例記号	○	◎			



特記事項 1) 主に観察と塑性図で判別分類